

## 実践事例

# ICTを使った書道学習

## ～動画の配信と Microsoft® Teams の活用～

千葉敬愛高等学校 教諭 板倉由香里

### はじめに

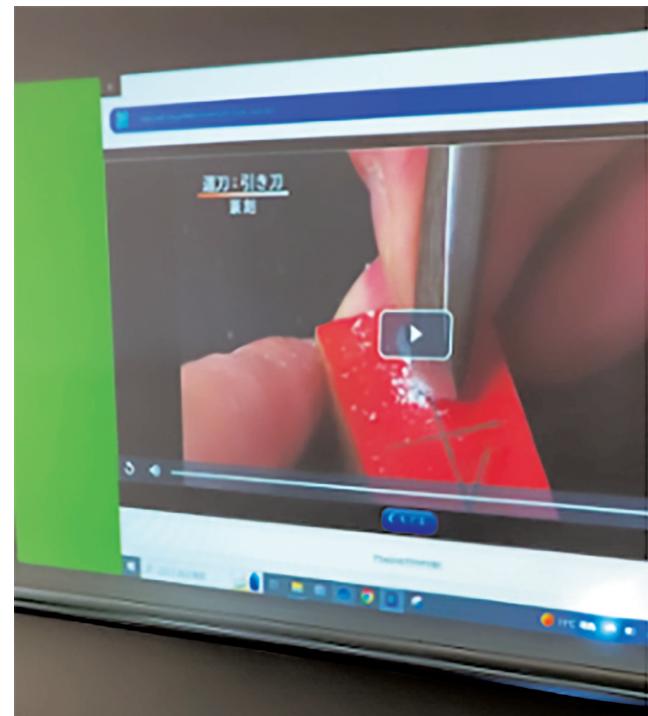
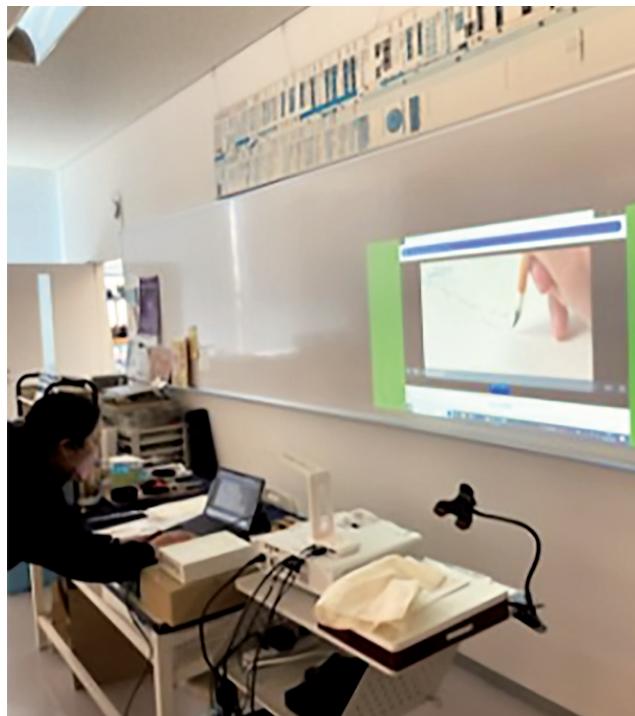
ICTを使った授業と聞いただけでも敷居が高く、どうしよう、何をやつたらいいのと思われる先生方も多いくこと思います。私はパソコンの操作も得意ではなく、本校が令和4年度入学生から全員に Microsoft Surface を持たせ、授業でコミュニケーションツール Microsoft Teams を使用することになったとき、とまどいました。

そこで、パソコンの操作が得意ではなくても ICTを使ってできることは何かを考え、まずは教科書の QR コンテンツ(動画)の視聴と Teams をを使った学習の振り返りから始めてみることにしました。

### 1. 教科書の QR コンテンツを利用した動画の視聴

教科書の QR コードを読み込み、生徒が分かりやすいようにスクリーンへ大きく映し出します。生徒は自席でタブレット端末から同じ動画を見ることもできます。

教師が机間指導や添削をしている最中でも、生徒は分からぬことがあった際に端末やスクリーンの動画を活用してすぐに確認することができます。実技系の教材は細かい操作や手順が多いので、短い動画をかなり活用している様子でした。



スクリーン(ホワイトボード)への動画の投影(仮名の書、篆刻)

## 2. Microsoft Teams を使った授業

生徒と教員間の授業連絡・クラス連絡などには、Teams を使用しています。書道の授業でも、Teams を使って課題を提出するように指示しました。

### (1) 課題の提出

生徒はタブレット端末のカメラや録画機能を活用し、授業で制作した作品などを撮影し、Teams で提出します。Teams には、点数をつけたり生徒自身が書いた作品の比較をしたりできる機能があります。

この Teams の課題機能により、提出の有無も可視化され、簡単にチェックすることができるようになりました。

制作物（作品）の撮影：篆刻



制作物（作品）の提出画面：篆刻

A screenshot of the Microsoft Teams assignment submission interface for seal script. It shows a preview of a calligraphy piece with two red seals at the top. Below the preview, there are several action buttons: '返却' (Return), '得点' (Score), '点数なし' (No score), and '返却済み' (Returned). On the right side, there is a sidebar with student information and a list of submitted files.

「振り返り」画面：仮名の書

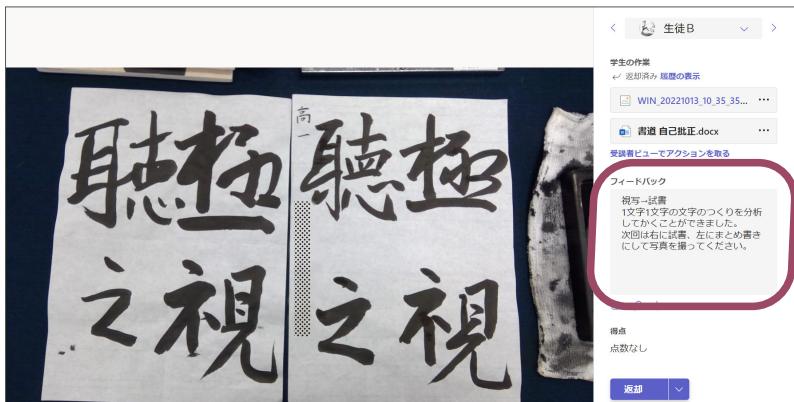
A screenshot of the Microsoft Teams reflection interface for hiragana writing. It shows a grid of hiragana characters written in ink on a sheet of paper. To the right of the grid, there is a camera view showing a calligraphy brush and ink bottle. The sidebar on the right contains feedback from the teacher, including a detailed explanation of the brushwork and ink usage, and a summary of the student's performance.

## (2) 教師からのフィードバック

Teams の課題機能を活用すると、提出された課題にコメントを書いてすぐ生徒に返すことができるので、生徒へのレスポンスやフィードバックがとても円滑に行えるようになりました。

生徒も「授業で書いて終わり」ではなく、自分で書いた作品の比較や見直しをしたり、感想を書いたりして、振り返ることができます。教師も授業内の時間でフィードバックをすることも可能です。

生徒の「振り返り」と教師からのフィードバック：漢字の書



### 誤字の訂正

A diagram illustrating the process. At the top, a box labeled "フィードバック" (Feedback) contains a message: "視写→試書 1文字1文字の文字のつくりを分析してかくことができました。次回は右に試書、左にまとめ書きにして写真を撮ってください。" (Copywriting → Trial writing. I analyzed the structure of one character at a time and was able to write it. Next time, please take trial writing on the right and summary writing on the left, and take a photo.). An arrow points down to another box labeled "次回の指示" (Next time's instruction), which contains the same feedback message.

※試書  
説明を聞かずに手本を見て書くこと。  
1枚目の作品のこと。  
※まとめ書き（授業時間のまとめの作品）  
練習、添削などをした後の提出作品。

A screenshot of Microsoft Word. The document content is: "今日の授業で蘭亭序の文字を書くとなったときに、自分にとって難しいと思う文字に挑戦しようと思って今回の文字を選びました。『極視聴之』という文字のまづ『極』は木へんとつくりのバランスが難しいと思いました。そして特に思ったことはつくりは形が複雑かつ曲線が多い形になっていたのでそこそこが視写の段階から特に苦労し、理解に苦しんだところでした。視写の時は悲惨な出来だったものの、先生の手本をもとに出来がいいものに仕上げることができて、今回の作品のなかで一番成長することができたところだと思います。『視』は、しめすへんとつくりの『見』の大きさのバランスを意識して書くことができました。『見』のはらいよ、はねのところも意識できました。『聴』は、みみへんの形と大きさが大事になると思いました。最終的に自分が納得いくまで書くことができてよかったです。最後に『之』は蘭亭序のなかでも周りの文字との大きさの違いが顕著だなと思ったので、その大きさを意識して書くことができました。自分の今回の字は縦のバランス、横のバランスがきれいに整えられていなかったと思うのでこれからはそこをもっと意識して書いていきたいと思いました。". Below the text is a red box containing the same feedback message as the previous screenshot: "要読者ピューでアクションを取る" (Take action using Reader View), followed by "フィードバック" (Feedback). The message reads: "複写→試書 1文字1文字の文字のつくりを分析してかくことができました。次回は右に試書、左にまとめ書きにして写真を撮ってください。" (Copywriting → Trial writing. I analyzed the structure of one character at a time and was able to write it. Next time, please take trial writing on the right and summary writing on the left, and take a photo.). Below this is a "得点" (Score) section with "点数なし" (No score).

## 生徒の「振り返り」と教師からのフィードバック：仮名の書

課題の提出

試書

まとめ書き

生徒の「振り返り」

1. 試書とまとめ書きを比べてみて、△をつけたことで分かりやすくなつて書きやすくなつた。  
試すの時に比べて、筆を立てることを意識して書いたら、よりいい字が書けるようになったと思う。

2. 道線になると、文字と文字がつながっている部分が、まっすぐかけず曲がつてしまつことが多い。  
次やるときはそこ注意して書いていきたい。

3. 道線で初めて書いてみて、バランスが悪くなつたりしてあまりうまく書けなかつた。  
その理由は2の反省と同じだと思うので、注意したい。

教師からのフィードバック

フィードバック

1. 大文字の「I」、「T」、「U」。同じノート上に2、3文字上の文字の中心に着目して書くと中心をとりやすいです。

3. 試書とまとめ書きでは、かなりの進歩がみられます。紙面の収まりが良くなり、行の中心も揃ってきました。よくがんばりましたね。

## おわりに

この実践では Microsoft Teams を使って「振り返り」や作品の投稿を行いましたが、生徒たちはノートも持っています。ノートには、古典のワークシートや自身の作品を時系列で貼っています。

Teams を使った「振り返り」を行ってみて、気付いたことがいくつかあります。

まず、生徒たちは筆記具を使ってノートに「振り返り」を書くよりも、はるかにスムーズに短時間で「振り返り」をパソコンに打ち込み、素直な気持ちを伝えることができます。鉛筆で書いた文字を訂正するときの、鉛筆を消しゴムに持ち替えて文字を消し、また鉛筆を持って書くという作業に比べて、パソコンでは簡単に文字を消し、打ち直すことができるため、生徒たちには取り組みやすいのではないかと思います。次に、実際の作品を並べて比較するよりも、作品を並べて画像にしたほうが、生徒たちは作品の違いを把握しやすいことも分かりました。

今後はパソコンを使いポートフォリオを作成し、1年間の作品を動画にし発表する、篆刻の制作過程の記録を作るなど、少しずつパソコンを使ってできることを増やしていきたいと思っています。

「実践事例」は、東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/> でも会員限定で公開しております。

東書Eネットは、教育関係者を対象とした教育情報・教育資料の提供サイトです。会員登録は Web や FAX などで受け付けております。

Copyright©2024 by Tokyo Shoseki Co.,Ltd.,Tokyo All rights reserved. Made in Japan.

QRコード®は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Microsoft Surface、Microsoft Teams は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。